

## 教師と教化について

### (討議要旨)

教化の場にある教師の悩みとして、変動の激しい現代は、個人的作業においての教化の有効な効果は望み得ない状況になりつつある。むしろ、葬祭儀式、或はチャーマン的な現世利益の習慣的低次の檀信徒の要求に押し流されているのが偽わざる現状である。

ここにおいて、教化の協同化が問題視され、護法運動を通して寺院の協同化が実動化された実績の評価と同時に困難な問題を含んでいる点も指摘された。

同一地域における文書伝道の出版物、団参などの協同化を着実に有効な積み重ねを進めながら、一方ではそれらをリードする宗門におけるモデルケースを作るべしという意見も出された。

都市伝道の中で、今後に残された課題として団地布教・スラム街布教があげられた。これらの問題は、個人の熱意をもってしても不可能であって、宗門的組織的な努力の積み重ねが必要である。特に団地布教は、今後、都市伝道の基本と見做さねばならぬ問題であって宗門が抜本的対策を考えなければならぬ時期にきている。これは非常に困難な問題であるが、しかし、これに取り組んでゆかなければ宗門は決定的な遅れをとることになるのではないか。

その方面の開拓伝道に従事せしめる具体的な対策として宗門の潜在的な能力となっている非住職者の活用があげられた。

岡元錬城師の「少年少女のための修養道場」のフレッシュでエネルギーな創意工夫にあふれた少年少女の教化あるいは、戦後ずっと青年活動を指導してこられた井田貞秀師の年輪を感じさせる味わい深い報告があったわけですが、このような報告を聞くにつきましても、宗門的な教化カリキュラムができていない現状において開拓者的な意気込みをもってなされたこうした貴重な経験を何とか教化カリキュラムの中で生かして宗門全体の共有財産としていきたいものだと思惑致します。

教化カリキュラムの問題につきましては、まず、作成の意義については、三田村師、北村師、木村師からそれぞれ指摘されている通り、計画性のある教化を可能ならしめること、従来個人ブレーに終っていたものを宗門の名のもとに統一性のあるものにしていくことに意義があるのではないか。

こうした教化カリキュラム作成をするということは、従来個人ブレーに任かされ、宗門はともすれば存在するのみであった。三田村師の言われたように、今後は行動する宗門でなければならないという宗門の重要なステップになる

のではないかというふうに考えられます。

カリキュラム作成に関する具体的な諸問題があつて、たとえば、地域性、時局性、教化対象の年齢層、テキストのあり方とその作成、理念的、教学的問題、民衆の全幅的な要求に直結したものなどの問題が出され、結論は出ませんでしたけれども、これから研究が深められることを期待したいと思います。

なによりも、今回の教化研究会議において、教化カリキュラムの作成委員会がただちに設置されなければならないということが力説された点を注目したいと思います。

個人プレーでは勿論不可能であり、また、宗門で行えばあるいは、現宗研でという意見も出されましたが、教化カリキュラムの問題は、この席に集つておられる体験者がその作成に当られることが最も適切ではないかと思ひます。

過去二回、教化研究会議が持たれていくつかの成果を生み出したわけですが、それが宗門行政の中に生かされたかと申しますと、残念ながらほとんど生かされてないということが偽わらざる気持であります。この点、このカリキュラム作成の問題は、行政レベルに移し易い。行政レベルに移すことを目標としてやつてゆかなければならないし、是非とも作成委員会を組織してやつてゆかなければならないと思ひます。

### 第三回教化研究会議のテーマ

#### 第一日目

##### (一) 教団における信仰と教化運動

- ① 都市寺院伝道における教化の問題点
- ② 農村寺院伝道における教化の問題点
- ③ 東北農村の宗教意識調査報告
- ④ 現代と信仰実践

##### (二) 教師と教化について

- ① 信徒教育並びに青少年教化の諸経験
- ② 教化活動カリキュラムについて

#### 第二日目

##### ① 討議とそのまとめ

##### ② 記念講演「誓願について」

上原専祿先生